

## 茨城県におけるムンプスウイルスの検出状況について

○後藤慶子，大橋慶子，齋藤葵，大澤修一，本谷匠，岩間貞樹，永田紀子，柳岡利一  
茨城県衛生研究所

### 【目的】

ムンプスウイルス（MuV）は流行性耳下腺炎の原因ウイルスであり，無菌性髄膜炎や脳炎等の合併症を認める場合がある。これらはワクチンで予防可能であり，定期接種化が求められている現在，導入に際し，ワクチンの効果や安全性評価のために MuV の遺伝子型を把握することは公衆衛生上重要である。今回，過去 3 年間の茨城県内における MuV の検出状況を報告する。

### 【材料と方法】

2014 年 4 月から 2017 年 9 月末までに感染症発生動向調査の一環として検体採取した 448 例（急性脳炎：202，無菌性髄膜炎：183，流行性耳下腺炎：39，その他：24）の検体（髄液，咽頭拭い液，血清，尿）について Realtime PCR 法または RT-PCR 法により MuV の検出を行った。MuV が検出された症例については small hydrophobic (SH) 遺伝子配列を含む領域のシーケンス解析を行い，遺伝子型別を実施した。

### 【結果】

448 例中 43 例（急性脳炎：1，無菌性髄膜炎：19，流行性耳下腺炎：21，その他：2）から MuV が検出された。遺伝子型は G が 38 例（Ge：10，Gw：28），B が 5 例（星野株：3，鳥居株：2）だった。性別は男 25 名，女 18 名，年齢の中央値は 9 歳（3 ヶ月～40 歳）であった。遺伝子型 G が検出された 38 例はワクチン接種歴あり 5 例，なし 18 例，不明 15 例であった。

### 【考察】

MuV が検出された 43 例中 38 例は遺伝子型 G であり，その多くは Gw であった。近年国内の MuV 検出例の大半は Gw が占めており，本県においても同様の傾向であった。遺伝子型 B の 5 例はワクチン接種後に発症しており，ワクチンの関与が示唆された。今後も引き続き，国内での MuV の分子疫学的データの集積に努めていきたい。